

現研 第422回新経営具体化研究会

日本の宇宙ビジネスの可能性を拓く

■講 師 中村尚樹氏
ジャーナリスト

●日 時 2025年1月31日(金)15:00~17:00

●司 会 現研主任研究員 大塚壽広

●開催方式 Zoomによるオンライン開催

※ 当研究会は講演形式を基本としながらも、参加者の疑問点や問題提起に応える質疑応答を重視して進めます。

<プログラム>

I. 急拡大する世界の宇宙ビジネスのダイナミズム

進む衛星ビジネスの価格破壊と利用領域の拡大／次々に実現する宇宙旅行／シリコンバレーが投資を競う先にあるもの／ロシア・ウクライナ戦争で見たスペースXの力／アルテミス計画が描く宇宙と人類／米国・中国・インドの宇宙開発の進展 他

II. 日本の宇宙ビジネスの現実と展望

1. 日本の宇宙ビジネスの事業構造の現実
2. 宇宙開発のネクストフロンティアを切り拓いてきた人びとの系譜
3. 独自のアプローチで挑戦する日本企業

<登場企業・プロジェクト>

スペースウォーカー/スペースワン/インターステラテクノロジズ/将来宇宙輸送システム/大林組/アクセルスペース/アークエッジスペース/QPS研究所/シンスペクティブ/大分県、シエラ・スペース、兼松/北海道スペースポート/スペースポートジャパン/スリム/アイスペース/トヨタ自動車、三菱重工/鳥取砂丘月面化プロジェクト/月の水資源探査企業群/清水建設/鹿島建設/千代田化工建設 他

III. 共同討議ー日本の宇宙ビジネスの可能性を拓く

<講師プロフィール>

中村尚樹(なかもらひさき)氏

1960年、鳥取市生まれ。九州大学法学部卒。ジャーナリスト。法政大学社会学部非常勤講師。元NHK記者。著書に『最先端の研究者に聞く日本一わかりやすい2050の未来技術』『最前線に働く人に聞く日本一わかりやすい5G』『ストーリーで理解する日本一わかりやすいMaaS&CASE』(いずれもプレジデント社)、『マツダの魂ー不屈の男 松田恒次』『最重度の障害児たちが語りはじめるとき』『認知症を生きたことー治療とケアの最前線ー』『脳障害を生きた人びとー脳治療の最前線』(いずれも草思社)、『占領は終わっていないー核・基地・冤罪 そして人間』(緑風出版)、『被爆者が語り始めるまでーヒロシマ・ナガサキの絆』『奇跡の人びとー脳障害を乗り越えて』(共に新潮文庫)、『「被爆二世」を生きた』(中公新書ラクレ)など。共著に『スペイン市民戦争とアジアー遥かなる自由と理想のために』(九州大学出版会)、『スペイン内戦とガルシア・ロルカ』(南雲堂フェニックス)、『スペイン内戦(一九三六〜三九)と現在』(はる出版)など。



中村尚樹著
『日本一わかりやすい
宇宙ビジネス』
(2024年6月 プレジデント社)

ご参加をお勧めします

今回はジャーナリストの中村尚樹氏をお招きして日本の宇宙ビジネスの今後の可能性を展望します。

氏の近著「日本一わかりやすい宇宙ビジネス ネクストフロンティアを切り拓く人びと」は、世界の宇宙ビジネスのトレンドを構造的に提示した上で、日本の宇宙に向けた科学技術開発とビジネス展開の系譜を見事に体系化して解説しています。と同時に、「日本のロケット開発の父」である糸川英夫博士の周辺にいた若者たちを起点にして現在に至るまで宇宙ビジネスを切り拓いてきた多彩多様な挑戦者たちの独自のアプローチとそれに賭ける真摯でおもしろい生き方を描き出しており、ノンフィクションとしての刺激に満ちた傑作です。

氏は日本の宇宙ビジネスについてこう語ります。

「宇宙ビジネスは2040年に150兆円規模になると言われているが、その需要は圧倒的に海外にある。日本政府による宇宙開発においても、米国、中国、EU、インドとの投資規模の格差は今後広がっていくであろう。一方で、日本政府は宇宙技術の重要性を認識しており、民間ビジネスへの支援を継続・拡大していくだろう。

そういう条件下で、日本の宇宙ビジネスは、政府との共創、国際分業と棲み分け、世界に必要とされる独自技術を活かしたグローバルな企業連携、日本独自のニッチ市場の開発などをうまく組み合わせながら発展していく道をたどるであろう」

氏を囲んで、急拡大している宇宙ビジネスのダイナミズムとそこで独自の挑戦を続けている日本企業の具体的取り組みとその展望についてお話をうかがい検討を進めます。

是非のご参加をお勧めします。

現研所長 大槻 裕志